ブラジル・サンパウロ発

美しいブラジルサッカーの歴史的背景とは？

こちらサンパウロでもワールドカップの喧騒がようやく静まり、今はPENTACAMPEAO（5度目の優勝）の余韻に静かに浸っております。しかしながら、今回のワールドカップ、時差がある地理的要因や下馬評の悪さで、開始早々は国民の関心度は低く、シラケムードすら漂っておりました。けれども決勝トーナメントに進出してからは、みなチームを絶賛。国中が優勝を信じて大ばく進したのです。

今回のワールドカップでマスメディアは、チーム全体の調和を優先する欧州スタイルに対し、個人力を前面に押し出すブラジルスタイルが勝利したという形容をしばし使いました。ブラジルで団体より個人、力より技が重視されるのには歴史的な理由があります。

今回のセレソンチーム（23人）を人種別に比較すると、混血や黒人の割合が国内平均値より高く、また選手の出身家庭の経済状態を比較すると、貧困層の割合は77％にまで達します。このことからブラジルでは、サッカーは人種や貧困の区別なく、あらゆる階層にて行われているスポーツであるということがわかります。しかし20世紀の初頭、ブラジルでも黒人に対する差別は厳しいものでした。よって黒人選手はラフプレーが伴う空中戦は避けて、華麗なドリブルを駆使するスタイルをひたすら磨いたのです。1923年にヴァスコ（現在ロマリオが所属しているチーム）が今までのタブーを覆し、黒人・混血のみでチームを結成、見事にチャンピオンフラッグを勝ち取りました。その後はペレを初め、数々の黒人名プレーヤーが登場。華麗な個人技は世界中の多くのファンを魅了しました。いつしか黒人・混血プレーヤーのみならず白人プレーヤーもが足技を磨くことに専念。「美しくなければサッカーではない」とまでいわれるようになったのです。

さて、次のワールドカップではいかなる結果が待っているのでしょうか。ヘキサカンピアン（ブラジルV6）を期待します。

金原 正幸／ブラジル サンパウロ在住

金原 正幸 プロフィール

会社名：Brazil at Once Comercio E Representacao Ltda.
住　所：Rua Galvao Bueno 218 Loja 16-20 Liberdade Sao Paulo Sp.Brazil
Tel　：+55-11-5549-9108
E-mail：mkim2501@hotmail.com
事業内容：ブラジルを中心とした南米製品の輸出業務全般、貿易代行等

韓国・ソウル発

オフィス街を揺さぶったワールドカップ熱風

2002年5月31日、韓国にはワールドカップ熱風が吹き荒れました。何よりも驚いたのは老若男女問わず、国内外の人が韓国を応援するという目的で、一緒に歌い、踊り、喜び、泣き、激励しあい、ひとつになれたことでした。報道では韓国の街頭応援ばかりにフォーカスをあてられましたが、仕事などで街頭に出られない人たちも、飲食店や電気製品売り場、会社の会議室で応援していました。もちろん半数以上の人は赤い”BeTheReds“と書かれたTシャツを着て出勤。ユニフォームの代わりにTシャツを着るようにした大手銀行もあります。

ソウルのハンガン（漢江）で韓国対イタリア戦があった日は、昼の3時から大渋滞。試合は8時からなのですが、街頭応援でいい席を取りたいと早退する人たちでごった返しました。おかげで本当のラッシュ時間は、死んだ町のような静けさ。しかし試合が始まると、あちこちの飲食店やオフィスから歓声が！この日はご存知の通り、韓国がイタリアを延長Vゴールで破りました。この瞬間、道にネクタイ部隊と赤いTシャツ部隊が入り混じり、大騒ぎになりました。

”デーハンミンクー（大韓民国）“が鳴り響く中、元サッカー選手だったバイオインフォマティックス（株）の社長も”今日はおごりだ！大韓民国様様、だ！“と社員たちを連れて居酒屋へ。翌日、創立以来3年間続いていた社長無遅刻記録は止まりましたが、”次のスペイン戦は全員赤色を着てこい！“といったそうです。

Juce You／韓国・ソウル在住

Juce You プロフィール

会社名：Manager of Planning Team Bio infomatix Inc.
住　所：135-813 #81-7, Nonhyun-Dong, Kangnam-Gu,Seoul,Korea
TEL　：+82-2-3445-3131
Fax　：+82-2-3445-1281
E-mail：zozo@bioinfomatix.com nagayo@bioinfomatix.com
事業内容：ゲノム分析システム研究開発および販売。プロテオムDBおよび分析システム研究開発および販売。生物学データベース統合および検索システム

フィリピン・マニラ発

”憧れの商品”携帯電話で命を落とす?!

日本での携帯電話は、無料でもらえたり、1円で買い替えができたり、E-mailもできて、インターネットへの接続も可能、さらには写真を撮って転送できるものもあるとか。

フィリピンの携帯電話はGSM方式といわれるもので、電話機本体の中に「SIMカード」と呼ばれる小さなカードが入っています。料金の残高、電話帳機能などは全てこの「SIMカード」で行います。通話料はプリペイド・カードで。そこに印刷されているシリアル・ナンバー等を入力して使用します。

さて、この携帯電話ですが、フィリピンではまだまだ高級品です。日本円で4～5万円もする高級機種は、給料の数か月分を貯金しないと到底買える代物ではありません。若者たちにとっては、憧れの商品No.1です。それだけに、携帯電話を狙った強盗事件も多く、抵抗して命を落とされた人も少なくありません。強盗も欲しがらない古くて安い機種を買って使うのも、わが身を危険から遠ざける方法のひとつです。

さらんご～ら／フィリピン・マニラ在住

さらんご～ら プロフィール

ロングステイ・マニラ・コンサルタンシー
住　所：2-3, The Elysium, Aguirre Ave, BF-homes, Paranaque, Metra Manila,Philippines
Tel　：+63-919-817-6549
E-mail：saranggola2002@hotmail.com

地球発 和僑タイムス

世界を股にかける「和僑ネットワーク」。各国に在住する特派員（ちょっとカッコよすぎ？）が現地で仕入れた生の情報を提供します。海の向こうから届く異国の風を感じてください。

※情報提供　和僑国際ビジネスネットワーク　http://www.wakyomall.net/

2002年（平成14年）
10月10日
木曜日

シンガポール・カンバンガン発　シンガポールのお宅拝見ルールに「参った！」

シンガポールでは、家主が家を売りたいと思っている場合、「家を見学したいという人が現れたら中を見せること」という事項が賃貸契約書にはっきりと掲載されています。そういうわけで、わが家にも『普段のままの状態』で見学者がやってきます。（私たちは賃貸ですが、家主が売りに出している）

うちの場合は、家主指定の不動産スタッフが客をつれてきます。（ここではR氏ということにします）R氏は、最低でも月に1回はきます。「今月は誰もこなかったな」と安心していると、翌月に2回も3回もきたりして、本当に油断できません。

日本では、住んでいる状態の家を見られるということはほとんどなく、最初はたいへん抵抗がありましたが、2年目ともなると慣れてきて大抵のことには驚かなくなりました。しかし近頃、久しぶりに「参った！」と思うことに遭遇したのです。

それは昼間、見学にきたある夫婦。なんと40分も長居して全く帰ってくれなかったのです。さらに「夜静かかどうか確認したいので、またきてもいいか」というので、いやいやながらもOKしてしまい、後悔しました。そうです！　その人たちは夜も長くいたのです。しかし、今回はハッキリと「そろそろ帰ってもらえませんか？」といいました。

本当に日本人との感覚の違いを感じさせられた経験でした。周囲の話では、わが家のように頻繁にくるところは珍しいのだとか。でも、今の家主はとても親切な人なので「家主さん代わらないで」というのが本心です。だからかしら、この家が全く売れないのは…。

飯盛 洋子／シンガポール・カンバンガン在住

飯盛 洋子 プロフィール

SOHOアジア副代表
団体名　：SOHOアジア
住　所　：32 Lorong Mydin, Tower E #09-02 Astoria Park, Singapore 416826
TEL& Fax：+65-6844-5229
Email　：palmisland @soho-asia.com
URL　：http://www.soho-asia.com
事業内容：SOHOエージェント、地域活性化、シンガポールとのビジネス交流に関してのコンサルティング、調査・マーケティング、執筆、講演をいたします。

アルゼンチン・ブエノスアイレス発　マラドーナ来日騒動の裏話

ワールドカップが日本で開催されるのを機に、アルゼンチン出身のサッカー界のスーパースター、マラドーナが日本入国申請をした。当初は麻薬所持前科で拒否されたが、アルゼンチンが「スポーツ観光特命大使」というお墨つきをくれて、最終的には入国許可となった。

しかし、ビザをなかなか取りに行かなかったことから「最初に拒否されたから、ヘソをまげている」と日本のメディアが報道。「許可は出たが、行かない可能性も」との声に、私はマラドーナスタッフとして日本行きのコーディネーションをしながら、ニュースというのは不思議だと思った。誰も彼と話をしていないのに、そして来日の準備も進んでいるのに…。

日本でも、同じようなことが起こった。決勝戦。翌日の新聞に、「貴賓室で紳士ばかりの中、でっぷり太った場違いのマラドーナ」とあたかも見たかのように書いてある。しかし、彼は貴賓室を嫌い、友人に席を譲って、一般のプレステージで祭典の臨場感を堪能していたのだ。

帰りの車の中、少しだけれども、79年に日本で行われたワールドユースで優勝した時の想い出を語ってくれた。どんな部屋だったかまで覚えているそうだ。

毎回、素顔のブエノスアイレスの情報を提供しているが、今回、素顔のマラドーナをここで紹介でき、嬉しく思っている。

相川 知子／アルゼンチン・ブエノスアイレス在住

相川 知子 プロフィール

会社名：Business Argentina Japon
住　所：Av. Scalabrini Ortiz2455,5"B", C.P.1425,Capital Federal,Argentina
TEL& Fax：+54-11-4831-3656/4833-4194
E-mail：tomokoar@hotmail.com
URL　：http://www.geocities.co.jp/Milkyway/6461/ http://www.tiendademarco.com/business/
事業内容：ビジネス、マスコミ、文化、滞在コーディネーション。通訳、翻訳、スペイン語、日本語、異文化レッスン。なお、日本人とアルゼンチン人の文化交流、社会活動交流を深めるため、財団を設置中。